

第2次平戸市総合計画

第2回

明るく元気なまちづくり部会

議 事 録

と き：平成29年12月26日（火）13：30～14：55

と ころ：平戸市役所 3階 会議室 AB

開催日時	平成 29 年 12 月 26 日 (火) 13 : 30～14 : 55
開催場所	平戸市役所 3階 会議室 AB
出席委員 (50音順、敬称略)	今川 亮生、相知 清隆、柿添 圭嗣、坂本 鏡心、西 サチ子、 村上 則夫、森 健司 (7名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	なし
事務局 (財務部企画財政課)	小出企画財政課長、藤山企画統計班長、浦川企画統計班主任主事 鴨川総務課長、度嶋福祉課長、尾崎保健センター事務長、 入口学校教育課長、平松教育総務課長、岩永生涯学習課長
次第	進行：浦川
1. 開会	
2. 企画財政課長 あいさつ	小出企画財政課長
3. 議事 第2次平戸市総合 計画の基本計画 (案)について ①基本プロジェクト2 ひとをそだ てるプロジェクト	(事務局から基本プロジェクト2の説明)
委員	平成 36 年、平成 39 年はありませんが、どうするのですか。
事務局	その点は検討中です。基本構想については議会の議決により、元号と西暦を併記することになっています。恐らく、それに合わせる形になるかと思います。
委員	6 ページの施策 4 の①の最初に、「市民と」を追加して、「市民と市職員との連携」としてはどうでしょうか。

	<p>9ページの施策2「学校における人権教育を推進する」の主な取組みについて、学校現場や平戸の現状を見ていて気になるところがあります。</p> <p>まず、①について、平戸はこれまで、人権教育研究、長崎県の中央研修会、行政と同和教育関係者との対談等への参加者が非常に少ないので、人権教育研究大会の後に、「ならびに人権教育研修会等」を加えていただきたいと思います。</p> <p>②について、「校内研修」は既に行っているので、③の頭に「校内研修の充実と」という形で入れてはどうでしょうか。また、学び合いとか、学校間の交流や幼保小中の連携を進めるために、「学校間交流研修会等の開催」も入れてはどうでしょうか。この主な取組みの中で、各学校で行われている良い取組みを広めるとか、連携していじめに取り組むといったことを表現できればと思いました。</p> <p>12ページの施策1の①の「平和思想の啓発」という表現について、次のページには「平和意識を高めましょう」とありますし、平戸市は人権関係でも平和意識という言葉を使っているので、「平和意識の高揚、啓発」としてはどうでしょうか。</p>
部会長	<p>主に文言の修正についてご意見がありました。協議が必要だろうと思いますが、今、回答できるものがありますか。</p>
事務局	<p>9ページの③に「校内研修の充実と」を付けてはどうかという点について、校内研修の充実というのは教職員のスキル向上も含めてお考えですか。</p>
委員	<p>それも含まれます。校内研修は教職員の向上と生徒の両方に絡んできます。人権について各学校でも、どう子どもたちを動かすか、どう子どもたちに訴えていくかといったことをやっていると思います。人権問題の勉強についても、研修会等に行って、その人が学校の校内研修で報告するなどしていると思います。そういうことをさらに意識してやってい</p>

	ただければという思いで申し上げました。
事務局	校内研修を充実させて、それを児童・生徒に対する人権教育の推進につなげるという意味ですか。
委員	そうです。今は②で「校内研修の開催」となっていますが、校内研修はもうやっていますので、「開催」は違うと思いました。
事務局	委員も言われたように、長くなってしまおうという点について調整が必要かと思います。
部会長	今のご意見については、内部で協議していただいて、結果をお伝えいただくということでいかがでしょうか。
委員	今、私が言った点は、平戸市の人権教育・啓発基本計画に全部書かれています。
部会長	人権教育・啓発基本計画と整合性を持たせるということをベースにして、修正を検討してほしいというご意見だと思います。
事務局	今回頂いたご意見を踏まえての修正、及び、庁内協議の中でも修正が出てくるかもしれませんので、その修正を加えた結果については、次の審議会の時に説明をさせていただきたいと考えています。その前段として、新旧対照表のような形で事前にお示ししたほうがいいでしょうか。
部会長	3つの部会のものを合わせた形での報告でいいと思います。
事務局	では、報告のタイミングについては、事務局で判断させていただきます。

<p>②基本プロジェクト3 暮らしをまもるプロジェクト</p>	<p>(事務局から基本プロジェクト2の説明)</p> <p>委員 26 ページの施策1の⑤は、推進という言葉を加えて「施設のユニバーサルデザイン化の推進」としてはどうでしょうか。</p> <p>29 ページの本文の最後の部分に、「……に向けた強化に努めます」とありますが、「取組み」とか「体制」といった言葉を入れたほうが良いように思います。例えば「……に向けた取組みの強化に努めます」などとしてはどうでしょうか。</p> <p>「障がいのある」という表現について、あるかないかではなく、持つか持たないかという表現のほうが良いのではないのでしょうか。例えば、車椅子の方が階段の所に来た時に、車椅子に乗っている人は「障がいを持っている」、階段があることで「障がいがある」、そこにエレベーターがあれば「障がいはなくなる」のです。障がいは、それに対する施策をすることによってなくなるものなので、「障がいを持つ」という表現のほうがふさわしいのではないかと思います。</p> <p>事務局 今年度、障がい福祉計画も策定しています。現行の平成27～29年度の計画の中では「障がいのある」という表現を使っているので、今頂いたご意見と、国が使っている表現等を参考にして、どちらがよいか検討させていただきたいと思います。</p> <p>部会長 一番上の趣旨のところには「障がいの有無」という表現があります。一般的に「ある」という表現が多いような気はします。</p> <p>委員 人権に関する意識はどんどん変わってきています。例えば、「障がい」と平仮名で書くことが一般的になってきました。同様に、今の時点でふさわしい言葉にしていくべきだと思います。</p>
---------------------------------	---

部会長	検討してください。
事務局	24 ページの施策 1 の「地域包括ケアシステムを構築する」について、先般の会議で、構築はもう既に始まっているので「充実」等にすべきではないかというご指摘を頂きました。そのように修正することも考えたのですが、既に基本構想案ができておりまして、その中で、地域包括ケアシステムを構築するという文言があります。「構築・充実」とか「構築・推進」という形にしてはどうかと考えております。
委員	「構築」は残していてもいいですが、今はそれが目的ではないので、「充実」を入れたほうがいいと思います。
事務局	では、そのように修正したいと思います。
委員	全体的に、高齢者に関する文章について、高齢者とか年をとることが悪のようなイメージで書かれているように感じます。私は、年をとることが誇りに思えるような社会であってほしいと願っています。ですから、年齢を重ねることが生きてきた証と感じられるとか、若い人が年をとった人を見て、「あんな年をとりたい」「あんな生き方をしたい」と思えるような文章になるといいなと思いました。例えば、24 ページの【平戸市の未来】を、若い人の希望になるような表現にできないでしょうか。
事務局	ご意見の趣旨は分かりました。具体的にどのような表現を入れたいらいいか、ご意見を頂ければと思います。
部会長	最近「いきいきと」等がよく使われています。
委員	ご意見にあった誇りという言葉そのまま使って、「高齢者が誇りを持って自分らしく」とすると思います。

事務局	「高齢者が誇りを持って自分らしく住み慣れた地域でいきいきと生活しています」でいいですか。
部会長	長過ぎるので「いきいきと」は取りましょう。
事務局	では、「誇りを持って」だけを追加した形にしたいと思います。
委員	24ページの施策1の②に「在宅医療・介護に関する関係市町との連携」とありますが、介護に関する関係市町とは何を指しているのですか。
事務局	今からの医療・介護においては、平戸市独自で完結しないところがございます。例えば、医療は佐世保等との連携が、療育では佐々町との連携が必要となります。産婦人科も平戸市にはないので、他市町との連携が必要です。
委員	そうであれば、「在宅医療・介護に関する関係市町」では市民には分かりにくいので、「近隣市町」のような書き方にするか、市町名を具体的に書くなどしたほうがいいと思います。
事務局	検討します。
委員	分かりやすく、いい文言できれいにまとまっていると思います。これを120%にするために、平戸らしさとか、平戸のにおいが感じられるところが出てくるといいと思いました。
事務局	平戸らしさが出せないかというご意見は、基本構想の延長というようなイメージで言われているのだらうと思います。基本プロジェクトの中身をあの流れでそろえるのは、ボリューム的なところも含め難しいので

	<p>はないかと思います。</p>
委員	<p>他の基本プロジェクトとの兼ね合いもあるので、これはこのままでいいと思います。運用の中でそういうニュアンスが出ればと思っています。</p>
委員	<p>子育てや教育において、私たちと現在の人たちの考え方にずれがあると感じています。例えば、「情けは人のためならず」は、情けは人のためではなく自分自身のためになるのだから、人のためにいろいろお世話をしてあげなさいということわざですが、今は、情けを人かけるとその人のためによくないという意味だと思っている子どもが多いそうです。ですから、そういう徳育の部分も子どもさんに教えたほうがいいと思います。平戸は正直で素直で誠の心がある人が多いので、そういう気持子を子どもたちにも育ててあげれば、観光客に対しても歓迎の気持ちを上手に表現できるようになるのではないかと思います。</p>
委員	<p>とある人間科学の先生が、身体活動はいや応なしに衰えていくけれども、精神活動は死を迎えるまで向上し続けると書かれています。ですから、「心豊かに」という文言をどこかに入るといいのではないかと思います。例えば20ページの【平戸の未来】を、「市民の健康意識が高まり、心豊かに生活を営んでいます」などとしてはどうでしょうか。今、Quality of Lifeではなく、Quality of Deathという考え方も出てきています。その時に、自分は心豊かに生きてきたと思えるようになればと願っています。</p> <p>それと、疑問に思ったことがあります。ここの中に、「生活」と「暮らし」という表現がありますが、どう違うのですか。</p>
事務局	<p>「暮らし」のほうが軟らかくなると思います。軟らかい表現のほうがいいとは考えていますが、全体的な表記を確認した上で検討したいと思います。</p>

部会長	法律では「生活」と書かれていることが多いです。そういうことを含めてご検討をしていただければと思います。
事務局	昨日の部会でも、市民が読むことを考えて表現を検討してほしいという意見が何度も出ていました。そこも含めて、もう一度表現の検討をしたいと思います。
委員	結局、20ページの【平戸の未来】に「心豊かに」を入れるのですか。
委員	「いきいきと心豊かに暮らしています」などとしていただければと思います。
部会長	それも含めて、事務局で検討をお願いします。
委員	最後に付録みたいなものを付けてはどうでしょうか。
委員	現在は、市民の皆さんで未来の平戸をつくっていきましょうというように、きれいにまとまり過ぎているように感じます。ですから、例えば、市役所の職員が、「私たち〇〇課は、未来の平戸市のために〇〇ができます」などと、市役所も頑張りますといったことを付録のような形で付け加えると、市民が見ておもしろいのではないかと思います。
部会長	読む意欲をかき立てるとのことですね。
事務局	読む意欲という点については、先だって考えていただいた構想の部分がそれにあたるのではないかと思います。例に挙げられたようなものを付けることは難しいと思いますが、工夫は必要だと思うので、検討した

	<p>いと思います。</p> <p>委員 市民が変わるだけでなく、市役所の人たちも変わるということを付け加えてはどうかと思い、例に挙げさせていただきました。</p> <p>部会長 ご検討のほどよろしく申し上げます。</p> <p>会議終了</p>
--	---